

ここに現れるように、中学校国語と高等学校国語の目標は密接に関連しており、中学校における学習成果を高等学校においてさらに深化・充実するものとなっている。

## 2 中学校と高等学校の学習内容のつながりと学習指導について

中学校国語と高等学校国語の各領域及び各教材ごとの内容をまとめたものが別表である(本冊子巻末資料参照)。学習指導要領における指導目標の達成を図るために、中学校国語と高等学校国語の学習内容は系統的に配置されており、内容が徐々に深められるようになっていく。

「表現」領域と「理解」領域に関して、中学校における指導の上に立って、基礎的な能力と態度を養うとともに、生徒の学習段階を踏まえた指導が求められている。また、「言語事項」に関しては、中学校段階における語句、文法、漢字等の学習がそのまま高等学校の学習の基礎となっている。

高等学校では教材の抽象性が高くなっており、中学校との教材の難易度を踏まえた内容面、指導面での接続を図るための工夫が求められる。

## 二 本県中学生・高校生の学習意識

### 1 「進路に関する意識調査」より

平成八年五月に県教育委員会で実施したこの調査によれば、国語は「好きな教科」としてあげられている割合が中学一年で五教科の中で比較的下位にあるが、

高等学校入学後、しだいに「好き」の割合が増加している。

その理由には複雑な要素が絡んでいるが、国語については中学校から高等学校にかけて科目と教材の内容が大きく変わることがあり、これが、生徒の興味・関心を高める一つの要件になっているものと考えられる。

一方、「嫌いな教科」については、高校二年の段階でわずかにその割合が上昇するが、中学一年から高校三年までほぼ横這い状態であり、大幅な増減はない。

### 2 「福島県の中学生の学習に対する意識と行動」より

平成七年六月に県教育センターで実施したこの調査結果によれば、「国語が好きになったわけ」は、「小説、詩、説明文などを読むことが好きだから」とする回答が最も多い。

また、同調査によれば、「好きな学習内容」として挙げられているのは「小説(物語)」「漢字の読み書き」

